

## 公開講座に対する意識調査について

### Investigation of Open Classes

平 真由美 今井 素恵  
藤田 美加 岡本 佐恵子  
Mayumi TAIRA Motoe IMAI  
Mika FUJITA Saeko OKAMOTO

#### Abstract

The increasing need to re-educate members of society presents good opportunities for Gifu City to offer information to the public. At Gifu City Women's College (GCWC), a library has been opened to the public and continuing education classes in cooperation with other universities have been set up. However, the number of participants in the open classes at GCWC has not increased. The purpose of this investigation is to explore the cause of participant reduction. We conducted an opinion poll in order to better understand the current situation. The results will be used to help improve open classes offered in the future.

#### 緒言

現在、日本における人口の高齢化はさらに進んでおり、そのため、人生50年型ライフスタイルをもとに構築された社会システムを見直し、人生80年型ライフサイクルにあわせた社会システムに転換していかねばならない。さらに、急激な社会変化や急速な技術革新に対応するスキルアップやキャリア開発としてのリカレント教育、また暮らしの質を高めるための様々な学習活動を、ライフステージごとに支援していくことが求められている。<sup>1)</sup>「個の育成」は、「地域経済」と「高等教育」相互の成長に繋がるため、「地域を守り、育てる大学」さらに「地域に守られ、育てられる大学(大学の開放)」が求められている。そこで、「企業・大学・行政」の連携を図るリカレント事業として、大学はキャンパス内に生涯学習のため独自のセンターを設置し、公開講座を開設するようになった。<sup>2)</sup>文部科学省生涯学習政策局資料によると、公開講座を行っている大学は、平成5年度に452校、平成6年度に486校、平成8年度に525校、平成10年度に549校、平成12年度には588校と、全国的に年々増加しており、それに伴い受講者数も増加している。<sup>3)</sup>

このように、社会人を対象とした再教育ニーズが高まるなか、岐阜市としては、総合的な生涯学習推進体制の確立を目指し、平成5年度に「岐阜市生涯学習基本構想」を策定し、体系的組織の整備、学習機会の充実や情報の提供に努めてきた。そして、平成8年には生涯学習都市宣言をし、「長良川大学」が設立された。しかし、市民のライフスタイルに応じた学習機会の提供や様々な要望に対応したカリキュラムの編成など、生涯学習の充実には様々な課題が残されていると思われる。<sup>4)</sup>実際に、本学でもこれまで地域交流を目的に図書館を開放し、他大学と連携し「長良川大学」の「リカレント課程」として公開講座にも力を注いできている。しかしその反面、本学における公開講座の受講

者数は、過去5年間を挙げると平成10年度52名、平成11年度67名、平成12年度21名、平成13年度49名、平成14年度11名と、伸びはあまり見られない。

そこで小論では、その受講者数伸び悩みの原因を探るべく、公開講座に対する意識調査を行い、現状を把握し公開講座に求められているものを探ることで、本学の今後の公開講座(エクステンションセミナー)に活かすことを目的とする。

#### I. 調査概要

##### 1. 調査目的

本調査は、岐阜市立女子短期大学(以降、岐女短とする)における公開講座の受講者数伸び悩みについて原因を探ることにある。現状を把握し、公開講座に求められているものを探ることで、本学の今後の公開講座に活かすことを目的とする。

##### 2. 調査方法

###### 1) 調査時期・対象

平成14年10月、主に岐阜を中心とする中部圏内外の218名

###### 2) 調査・集計方法

集団調査法、留置調査法および郵送調査法で、単純集計およびクロス集計を行った。

###### 3) 調査領域

- ① 基本属性
- ② 趣味・嗜好の傾向
- ③ ライフスタイル・カルチャースクール
- ④ 公開講座に対する認知・要望、資格に対する興味

## II. 調査項目・調査結果

本調査では、以下の計 33 項目にわたる質問を、調査対象者に行った。それぞれの質問は大きく 4 つに分類される。①では回答者個人に関する質問を行い、②では回答者の趣味・嗜好に関する質問を行い、③では回答者のライフスタイルとカルチャースクールについての質問を行い、④では公開講座に対する認知や具体的な要望、資格への興味などの質問を行った。各質問項目に対しては、それぞれ調査項目と以下に示すような意図をあらかじめ設定し、その回答によって調査意図に対する結果が示せるように計画・実施した。詳細な質問計画や項目は以下の通りである。なお、調査結果を項目の後に示す。

### 質問計画・調査項目・調査結果

#### I. あなたご自身のことについてお伺いします。

##### I-1. あなたの性別は

(1) 男性 60 名 (27.5%) (2) 女性 158 名 (72.5%)

・性別によるクロス集計を行うことで、傾向の差異を見る。また、男女のライフサイクルによる考察を行う。

##### I-2. あなたは既婚ですか、未婚ですか

(1) 既婚 129 名 (59.2%) (2) 未婚 89 名 (40.8%)

・既婚・未婚によるライフスタイルの差異を見る。

##### I-3. あなたのお住まいは

(1) 岐阜市内 70 名 (32.1%) (2) 岐阜市外で岐阜県内 59 名 (27.1%) (3) 愛知県 43 名 (19.7%) (4) その他 45 名 (20.6%) 無回答 1 名 (0.5%)

・岐阜市民とその他地域の傾向の差異を見る。

##### I-4. あなたの年齢は

(1) 19 歳以下 26 名 (11.9%) (2) 20 歳代 65 名 (29.8%) (3) 30 歳代 24 名 (11.0%) (4) 40 歳代 61 名 (28.0%) (5) 50 歳代 31 名 (14.2%) (6) 60 歳以上 11 名 (5.0%)

・年齢による傾向の差異を見る。

##### I-5. あなたの職業は

(1) 会社員 70 名 (32.1%) (2) 公務員 26 名 (11.9%) (3) 自営業 16 名 (7.3%) (4) 主婦 40 名 (18.3%) (5) 高校生 1 名 (0.5%) (6) 大学生 27 名 (12.4%) (7) 無職 9 名 (4.1%) (8) その他 23 名 (10.6%) 無回答 6 名 (2.8%)

・職業による傾向の差異を見る。

I-5-a. 職業が(1)~(3)の方に質問します。あなたの職業の業種は

(1) 金融関係 11 名 (9.8%) (2) 広告関係 2 名 (1.8%) (3) アパレル関係 10 名 (8.9%) (4) 建築関係 6 名 (5.4%) (5) 電気・機械関係 12 名 (10.7%) (6) 不動産関係 0 名 (0.0%) (7) 法律関係 2 名 (1.8%) (8) 医療関係 8 名 (7.1%) (9) 食品関係 5 名 (4.5%) (10) 教育関係 12 名 (10.7%) (11) その他 38 名 (33.9%) 無回答 6 名 (5.4%)

・業種による傾向の差異を見る。

#### II. あなたご自身の趣味・嗜好についてお伺いします。

II-1. 以下のものについて、あなたが興味のあるものを選んでください。(複数回答可)

(1) 法律 11 名 (5.1%) (2) 政治 13 名 (6.0%) (3) 経済 22 名 (10.1%) (4) 経営 9 名 (4.1%) (5) 金融 12 名 (5.5%) (6) 株 12 名 (5.5%) (7) 商業 3 名 (1.4%) (8) 農業 15 名 (6.9%) (9) 畜産 1 名 (0.5%) (10) 水産 2 名 (0.9%) (11) 海洋 6 名 (2.8%) (12) 地質 5 名 (2.3%) (13) 地球環境 28 名 (12.8%) (14) 天文 18 名 (8.3%) (15) 航空 7 名 (3.2%) (16) 自動車 32 名 (14.7%) (17) 機械 9 名 (4.1%) (18) 電気 6 名 (2.8%) (19) 工学 1 名 (0.5%) (20) 建築 22 名 (10.1%) (21) 物理 0 名 (0.0%) (22) 統計 1 名 (0.5%) (23) 数学 3 名 (1.4%) (24) 科学 6 名 (2.8%) (25) 化学 2 名 (0.9%) (26) 生物 13 名 (6.0%) (27) バイオテクノロジー 8 名 (3.7%) (28) 薬学 9 名 (4.1%) (29) 医学 22 名 (10.1%) (30) 健康 72 名 (33.0%) (31) スポーツ 67 名 (30.7%) (32) ダイエット 55 名 (25.2%) (33) 芸能 34 名 (15.6%) (34) 演劇 16 名 (7.3%) (35) 音楽 81 名 (37.2%) (36) 美術 44 名 (20.2%) (37) 陶芸 17 名 (7.8%) (38) 写真 30 名 (13.8%) (39) ガーデニング 36 名 (16.5%) (40) 手芸 40 名 (18.4%) (41) 料理 57 名 (26.2%) (42) 食品 30 名 (13.8%) (43) 育児 14 名 (6.4%) (44) 教育 16 名 (7.3%) (45) 就職 9 名 (4.1%) (46) 福祉 18 名 (8.3%) (47) 冠婚葬祭 9 名 (4.1%) (48) 家事 18 名 (8.3%) (49) インテリア 56 名 (25.7%) (50) カラー (色彩) 23 名 (10.6%) (51) メイク 38 名 (17.4%) (52) ファッション 69 名 (31.7%) (53) 国内旅行 66 名 (30.3%) (54) 海外旅行 44 名 (20.2%) (55) コミュニケーション 9 名 (4.1%) (56) 通信 4 名 (1.8%) (57) パソコン 45 名 (20.6%) (58) ゲーム 16 名 (7.3%) (59) コンピュータグラフィックス 6 名 (2.8%) (60) 情報 15 名 (6.9%) (61) 歴史 24 名 (11.0%) (62) 宗教 20 名 (9.2%) (63) 心理 25 名 (11.5%) (64) 小説(執筆) 7 名 (3.2%) (65) その他 2 名 (0.9%)

・一般的な趣味・嗜好の傾向を見る。

II-2. あなたが趣味に対して 1 ヶ月にかかる金額はいくらですか

最高 20 万円 (50 歳代・男性・自営業) の人から、全くお金を使わない 0 円の人までおり、平均金額は 12,191 円であった。

・趣味・嗜好にかかる金額の傾向を見る。また、趣味・嗜好の傾向はライフスタイルに関係していることが言えるのではないかと考え、次にライフスタイルについて尋ね考察した。

#### III. あなたのライフスタイルに関してお伺いします。

III-1. あなたの主な情報源は何ですか (複数回答可)

(1) 新聞 125 名 (57.3%) (2) 雑誌 77 名 (35.3%) (3) 自治体の広報誌 23 名 (10.1%) (4) インターネット 66 名 (30.3%) (5) テレビ 169 名 (77.5%) (6) ラジオ 27 名 (12.4%) (7) ポスター・チラシ 31 名 (14.2%) (8) その他 7 名 (3.2%)

・主な情報源を尋ね、公開講座の有効な告知法を探る。

III-2. あなたはどのくらいの図書館を利用しますか

(1) ほとんど毎日 5 名 (2.3%) (2) 2~3 日に 1 回 5 名 (2.3%)

## 公開講座に対する意識調査について

(3)週に1回 28名(12.8%) (4)月に1回 39名(17.9%) (5)半年に1回 106名(48.6%) (6)年に1回 12名(5.5%) (7)ほとんど利用しない 106名(48.6%) 無回答 2名(0.9%)

・図書館の利用率と公開講座受講意欲の関係を検討する。

Ⅲ-3. あなたはどのくらい本を読みますか(コミック・漫画・雑誌を除く)

(1)週1冊以上 25名(11.5%) (2)月2冊 29名(13.3%) (3)月1冊 41名(18.8%) (4)2〜3ヶ月に1冊 27名(12.4%) (5)半年に1冊 19名(9.6%) (6)年に1冊 19名(8.7%) (7)ほとんど読まない 51名(23.4%) 無回答 5名(2.3%)

・読書量と公開講座受講意欲の関係を検討する。

Ⅲ-4. あなたがよく読む本のジャンルは何ですか(複数回答可)

(1)文芸・ミステリー 73名(33.5%) (2)人文・社会・ノンフィクション 39名(17.9%) (3)科学・技術 13名(6.0%) (4)医学・看護 19名(8.7%) (5)コンピュータ・インターネット 16名(7.3%) (6)ビジネス・経済 13名(6.0%) (7)法律・資格 5名(2.3%) (8)建築 7名(3.2%) (9)教育・福祉 10名(4.6%) (10)語学 10名(4.6%) (11)暮らし・実用・旅行 84名(38.5%) (12)芸能・スポーツ 30名(13.8%) (13)美術・デザイン・写真 31名(14.2%) (14)児童書・絵本 26名(11.9%) (15)女性・ライフスタイル・恋愛 42名(19.3%) (16)その他 12名(5.5%)

・好みのジャンルによって、興味ある公開講座の分野が伺えないか考察する。

Ⅲ-5. あなたは現在、生涯教育施設(カルチャーセンター・お稽古事)に通っていますか

(1)はい 50名(22.9%) (2)いいえ 166名(76.1%) 無回答 2名(0.9%)

・生涯教育施設の利用率を男女別で見る。ライフサイクルの違いによる傾向が見られないか、またカルチャースクール等に通っている人は、公開講座にも興味のある人が多いのではないかと考察する。

Ⅲ-5-a. 上の質問で(1)と答えた人に質問します。何を習っていますか、また1ヶ月にかけ生涯教育の総額はいくらですか

生涯教育の内容は、運動分野(スイミング、スポーツジム)や趣味分野(茶道、陶芸、フラワーアレンジメント、絵手紙、トールペイント、着付け、大正琴、料理、パン教室、和裁、合唱、書道、手話)や、スキルアップ分野(パソコン)などがあつた。

また、生涯教育施設に通っている人の内、生涯教育に対して1ヶ月に使う金額は、最高3万円の人から無料講座を受けている0円の人があり、平均金額は8,024円であつた。

・生涯教育の内容を探ることで趣味・嗜好の傾向と比較する。またお金を費やしてでも学びたい興味のあることは何か考察する。その費用はどのくらいかを見る。

## Ⅳ. 大学の公開講座についてお伺いします。

Ⅳ-1. あなたは様々な大学で公開講座が行われていることを知っていますか

(1)はい 121名(55.5%) (2)いいえ 95名(43.6%) 無回答 2名(0.9%)

・一般的な大学における公開講座の認知度を見る。

Ⅳ-1-a. 上の質問で(1)と答えた方に質問します。あなたは今までにどこか(岐阜市立女子短期大学以外)の公開講座を受講したことがありますか

(1)ある 15名(12.4%) (2)ない 105名(86.8%) 無回答 1名(0.8%)

・一般的な大学における公開講座の受講経験を見る。

Ⅳ-1-b. Ⅳ-1-aで(1)と答えた方に質問です。具体的に講座の内容を教えてください(複数回答可)

( )大学( )講座  
岐阜大学、岐阜薬科大学、朝日大学、聖徳学園大学、東海女子大学、愛知大学、中部大学、同朋大学、名城大学、名古屋芸術大学、日本福祉大学などがあつた。

講座内容は、「食品」「医学」「健康」「語学」「地球環境」「スポーツ」などの分野があつた。

・実際に受講した講座の内容を聞き、趣味・嗜好との関係を見る。

Ⅳ-2. あなたは岐阜市立女子短期大学で公開講座が行われていることを知っていますか

(1)はい 43名(19.7%) (2)いいえ 167名(76.6%) 無回答 8名(3.7%)

・岐阜短における公開講座の認知度と、一般的な大学の認知度を比較する。また、岐阜市民の認知度を見る。

Ⅳ-2-a. 上の質問で(1)と答えた方に質問します。あなたは今までに岐阜市立女子短期大学の公開講座を受講したことがありますか

(1)ある 6名(14.0%) (2)ない 37名(86.0%)

・岐阜短における公開講座の受講経験を見る。

Ⅳ-2-b. Ⅳ-2-aで(1)と答えた方に質問します。具体的に講座の内容を教えてください(複数回答可)

( )講座

回答者なし。

・岐阜短で受講した公開講座を挙げ、趣味・嗜好との関係を見る。

Ⅳ-2-c. Ⅳ-2の質問で(1)と答えた方に質問します。公開講座についての情報はどこで知りましたか(複数回答可)

(1)広報誌 13名(59.1%) (2)インターネット 0名(0.0%) (3)チラシ 3名(13.6%) (4)その他 6名(27.3%)

・岐阜短における公開講座を認知している人は、どこからその情報を得たのか探ることで、告知法について検討する。

Ⅳ-3. Ⅳ-1-aまたはⅣ-2-aの質問で(1)と答えた方に質問します。中でも興味深かつた講座はどのような講座ですか

## 公開講座に対する意識調査について

( ) 講座

「新老人」「パリコレ」という回答があった。

・公開講座の受講経験者の内、講座としてどのようなものに興味があるのか探る。

IV-4. あなたが公開講座に参加するとしたらどのような時期に開講してほしいですか

(1) 4月～7月 18名(8.3%) (2) 8月～9月 49名(22.5%) (3) 10月～1月 20名(9.2%) (4) 2月～3月 8名(3.7%) (5) いつでもよい 110名(50.5%) (6) その他 7名(3.2%) 無効回答 6名(2.8%)

・設問IV-4 からIV-12 では具体的な公開講座の開講形態等に関する希望調査を行った。現状と比較検討することで、公開講座の受講者数伸び悩みの原因を探る。開講時期について尋ねた。

IV-5. 公開講座の行われる日はいつがよいですか

(1) 平日 36名(16.5%) (2) 土曜日 55名(25.2%) (3) 日曜日・祭日 52名(23.9%) (4) 夏休み・冬休み等長期休暇 29名(13.3%) (5) いつでもよい 35名(16.1%) 無効回答 11名(5.0%)

・具体的な開講日について尋ねた。

IV-6. 公開講座の行われる時間帯はいつがよいですか

(1) 午前 57名(26.1%) (2) 午後 77名(35.3%) (3) 夜間 39名(17.9%) (4) いつでもよい 40名(18.3%) 無効回答 5名(2.3%)

・具体的な開講時間帯について尋ねた。

IV-7. 一つの講座に関して何回行われるのがよいですか

(1) 1回 74名(33.9%) (2) 4～5回 131名(60.1%) (3) 10回以上 11名(5.0%) 無回答 2名(0.9%)

・具体的な講座の回数について尋ねた。

IV-7-a. 上の質問で(1)以外と答えた方に質問します。どのくらいの頻度で開講してほしいですか

(1) 週1回 48名(33.8%) (2) 隔週 42名(29.6%) (3) 月1回 33名(23.2%) 無回答 19名(13.4%)

・具体的な開講頻度について尋ねた。

IV-8. 講座が数回に渡って行われるとしたらどちらの形式がよいですか

(1) 様々な分野を組み合わせで行うオムニバス形式 87名(56.4%) (2) 1つの分野を連続で行う形式 123名(39.9%) 無回答 8名(3.7%)

・具体的な講座形式について尋ねた。

IV-9. 公開講座に参加できる人数はどの程度がよいですか

(1) 20名以下 72名(33.0%) (2) ～40名 108名(49.5%) (3) ～60名 19名(8.7%) (4) ～80名 8名(3.7%) (5) それ以上 9名(4.1%) 無回答 2名(0.9%)

・具体的な受講者数について尋ねた。

IV-10. 公開講座を受講するならどのような対象の講座に参加したいですか (複数回答可)

(1) 小・中学生 9名(4.1%) (2) 高校生 19名(8.7%) (3) 親子 47名(21.6%) (4) 社会人 185名(84.9%) (5) 高齢者 28名(12.8%)

・具体的な講座の対象について尋ねた。

IV-11. 公開講座の形式はどのようなものがよいですか (複数回答可)

(1) 講義 116名(53.2%) (2) 実技 122名(56.0%) (3) 実験 44名(20.2%) (4) 現地講座 56名(25.7%) (5) 遠隔授業(Webを使った形式) 10名(4.6%)

・具体的な講座形態について尋ねた。

IV-12. 公開講座はどのような人から話を聞きたいですか

(1) 大学の教員 111名(50.9%) (2) 外部講師(現場で活躍している人など) 85名(39.0%) 無効回答 22名(10.1%)

・具体的な講師について尋ねた。

IV-13. 大学による公開講座のイメージはどのようなものでですか (複数回答可)

(1) 受講料が安い 40名(18.3%) (2) 受講料が高い 14名(6.4%) (3) 大学の先生の講義が受けられる 80名(36.7%) (4) 高度な学問を身に付けられる 23名(10.6%) (5) 大学の雰囲気を楽しむ 84名(38.5%) (6) 難しそう 47名(21.6%) (7) 楽しそう 30名(13.8%) (8) 高度な学問の一端に触れられる 55名(25.2%) (9) 何も思わない 17名(7.8%) (10) その他 3名(1.4%)

・大学による公開講座のイメージを聞き、一般的に考えられている講座のメリット・デメリットを見る。

IV-14. 次のうち、あなたが興味のある講座は何ですか (複数回答可)

(1) 外国語 36名(16.5%) (2) 外国文学 20名(9.2%) (3) 人間学 40名(18.3%) (4) ジェンダー論 16名(7.3%) (5) 心理学 68名(31.2%) (6) 情報処理 32名(14.7%) (7) 人体構造と機能 23名(10.6%) (8) 社会生活と健康 35名(16.1%) (9) 健康科学 45名(20.6%) (10) 食品の安全性 44名(20.2%) (11) 栄養学 26名(11.9%) (12) 調理学 22名(10.1%) (13) 家庭科学 17名(7.8%) (14) ファッションデザイン 55名(25.2%) (15) 染色 33名(15.1%) (16) 色彩学 27名(12.4%) (17) グラフィックデザイン 27名(12.4%) (18) プロダクトデザイン 8名(3.7%) (19) インテリアデザイン 43名(19.7%) (20) その他 5名(2.3%) (21) なし 3名(1.4%)

・岐阜短で実際に学生へ向け開講している授業科目のキーワードを挙げ、その中で興味のあるものを調べ、公開講座に出来る内容がないか検討する。

IV-15. 以下は、本学で過去に行われた公開講座です。あなたが興味のある講座は何ですか (複数回答可)

(1) 健康とスポーツ 61名(20.8%) (2) 生活と文化 34名(15.6%) (3) 生活の中の美術、工芸 57名(26.1%) (4) 健康と食生活の目的課題を探る 35名(16.1%) (5) 学問の楽しみ 10名(4.6%) (6) 英米文化への招待 16名(7.3%) (7) 暮らしの科学と造形 24名(11.0%) (8) 食べることの楽しみ 60名(27.5%) (9) 初心者のためのWindows入門 34名(15.6%) (10) 英語の諸相 13名(6.0%) (11) 衣生活の楽しみ 26名(11.9%) (12) 異文化発見! 35名(16.1%) (13)

公開講座に対する意識調査について

もっと健康になれる食生活の科学 58 名 (26.6%) (14) 英米文化コミュニケーション 14 名 (6.4%) (15) 生活をデザインする 53 名 (24.3%) (16) なし 13 名 (6.0%)

・過去に岐女短で行われた講座の内、どの講座に興味があるか傾向を見る。

IV-16. 以下のうち、あなたが興味のある資格は何ですか (複数回答可)

- (1) 英語検定 23 名 (10.6%) (2) 漢字検定 41 名 (18.8%) (3) 栄養士 18 名 (8.3%) (4) TES (繊維製品品質管理士) 11 名 (5.0%) (5) インテリアコーディネーター 45 名 (20.6%) (6) カラーコーディネーター 46 名 (21.1%) (7) 情報処理 29 名 (13.3%) (8) TOEIC 19 名 (8.7%) (9) TOEFL 10 名 (4.6%) (10) 介護福祉士 26 名 (11.9%) (11) ホームヘルパー 20 名 (9.2%) (12) 保育士 3 名 (1.4%) (13) 医療事務 18 名 (8.3%) (14) 社会労務士 12 名 (5.5%) (15) 宅建 12 名 (5.5%) (16) 司書 9 名 (4.1%) (17) 学芸員 16 名 (7.3%) (18) 心理士 32 名 (14.7%) (19) CG 検定 5 名 (2.3%) (20) マルチメディア検定 5 名 (2.3%) (21) 画像処理検定 10 名 (4.6%) (22) 秘書 10 名 (4.6%) (23) CAD 12 名 (5.5%) (24) パターンメイキング 15 名 (6.9%) (25) ファッション販売 19 名 (8.7%) (26) ファッションビジネス 14 名 (6.4%) (27) その他 7 名 (3.2%) (28) なし 25 名 (11.5%)

・スキルアップなどのため資格に興味がないかと考え、興味のある資格について尋ね、傾向を見る。

IV-17. あなたが大学で行われる公開講座に望むことは何ですか (複数回答可)

- (1) 仕事に活かせる資格・技術 82 名 (37.6%) (2) 趣味に関する知識・技術 114 名 (52.3%) (3) 高度な教養 11 名 (5.0%) (4) 幅広い教養 74 名 (33.9%) (5) 専門知識 41 名 (18.8%) (6) 悩みに関する相談 9 名 (4.1%) (7) 人との出会い・コミュニケーション 53 名 (24.3%) (8) その他 1 名 (0.5%) (9) 特になし 12 名 (5.5%)

・公開講座を受講するならどのような目的で受講するのか尋ね、公開講座の重点とする方向性について考える。

IV-18. 公開講座の費用についてお伺いします

数回の講義等を 1 講座とした場合、その費用はどの程度ならよいですか

ー a. 趣味に関する知識や技術を身につけられる講座の場合はどの程度が適当だと思いますか

- (1) 無料 62 名 (28.4%) (2) ~2,000 円 83 名 (38.1%) (3) ~5,000 円 57 名 (26.1%) (4) ~10,000 円 13 名 (6.0%) (5) それ以上 1 名 (0.5%) 無回答 2 名 (0.9%)

ー b. 仕事に活かせる資格や技術に関する講座の場合はどの程度が適当だと思いますか

- (1) 無料 29 名 (13.3%) (2) ~2,000 円 57 名 (26.1%) (3) ~5,000 円 74 名 (33.9%) (4) ~10,000 円 46 名 (21.1%) (5) それ以上 9 名 (4.1%) 無回答 3 名 (1.4%)

・公開講座の費用について尋ね、妥当と考えられる費用の設定について検討する。

IV-19. あなたが公開講座受講の証明として望むものはありますか (複数回答可)

- (1) 公開講座の修了証 64 名 (29.4%) (2) 大学の単位 20 名 (9.2%) (3) 公的な資格 81 名 (37.2%) (4) 何も望まない 82 名 (37.6%)

・公開講座を受講することによって、その証明のようなものを望んでいるか尋ね、検討する。

IV-20. あなたは興味のある講座があれば受けてみたいですか

- (1) はい 186 名 (85.3%) (2) いいえ 30 名 (13.8%) 無回答 2 名 (0.9%)

・受講意欲があるか尋ねた。

IV-21. 公開講座や大学について、意見がありましたら何でもご自由にお書きください。

『岐女短で公開講座が行なわれていることを知らなかった。告知の方法を検討して欲しい』という告知方法についてのクレーム 7 件、公開講座に対する具体的な要望 12 件、『公開講座を受けてみたい』という受講意欲 6 件という結果だった。

・具体的に率直な意見を聞き、それについて検討する。

III. クロス集計結果・考察

まず、調査領域ごとにまとめて結果を考察する。

① 基本属性

基本属性を性別、既婚・未婚、年齢、住所、職業についてクロス集計を行ったので、表 1・表 2・表 3 に示す。

今回の調査は「女性」が全体の 72.5% と偏ってしまったため、全体の結果と女性のみ絞った場合の結果を、ライフサイクルを含めながら考察することにした。

表 1. 調査対象者の性別、既婚・未婚、年齢

単位: 人数

|    | 19歳以下 |    | 20歳代  |    | 30歳代 |    | 40歳代 |    |
|----|-------|----|-------|----|------|----|------|----|
|    | 既婚    | 未婚 | 既婚    | 未婚 | 既婚   | 未婚 | 既婚   | 未婚 |
| 男性 |       |    | 4     | 13 | 7    | 2  | 15   |    |
| 女性 | 1     | 25 | 6     | 42 | 12   | 3  | 44   | 2  |
| 計  | 26    |    | 65    |    | 24   |    | 61   |    |
|    | 50歳代  |    | 60歳以上 |    | 計    |    |      |    |
|    | 既婚    | 未婚 | 既婚    | 未婚 |      |    |      |    |
| 男性 | 14    |    | 4     | 1  | 60   |    |      |    |
| 女性 | 16    | 1  | 6     |    | 158  |    |      |    |
| 計  | 31    |    | 11    |    | 218  |    |      |    |

表 2. 調査対象者の住所

単位: 人数

|    | 岐阜市内 | 岐阜県内 | 愛知県 | その他 |
|----|------|------|-----|-----|
| 男性 | 14   | 12   | 17  | 16  |
| 女性 | 56   | 47   | 26  | 29  |
| 計  | 70   | 59   | 43  | 45  |

表3. 調査対象者の職業

単位:人数

|    | 会社員 | 公務員 | 自営業 | 主婦 |
|----|-----|-----|-----|----|
| 男性 | 32  | 7   | 6   | 1  |
| 女性 | 38  | 19  | 10  | 39 |
| 計  | 70  | 26  | 16  | 40 |

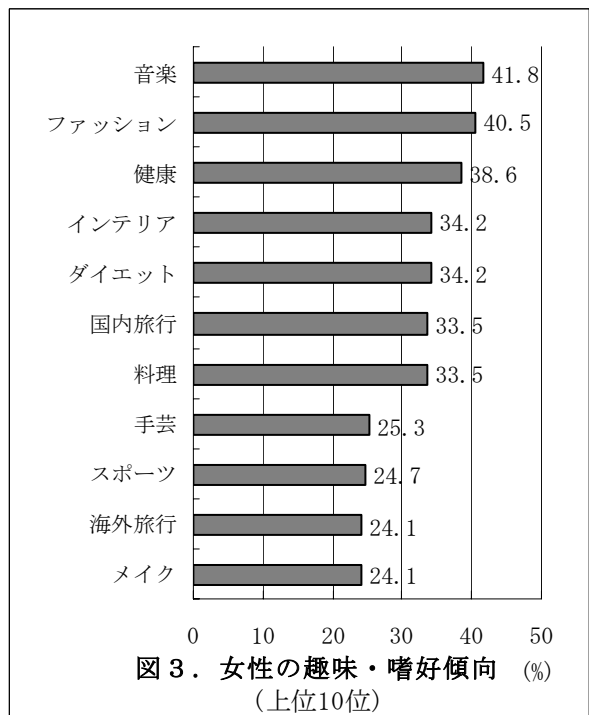
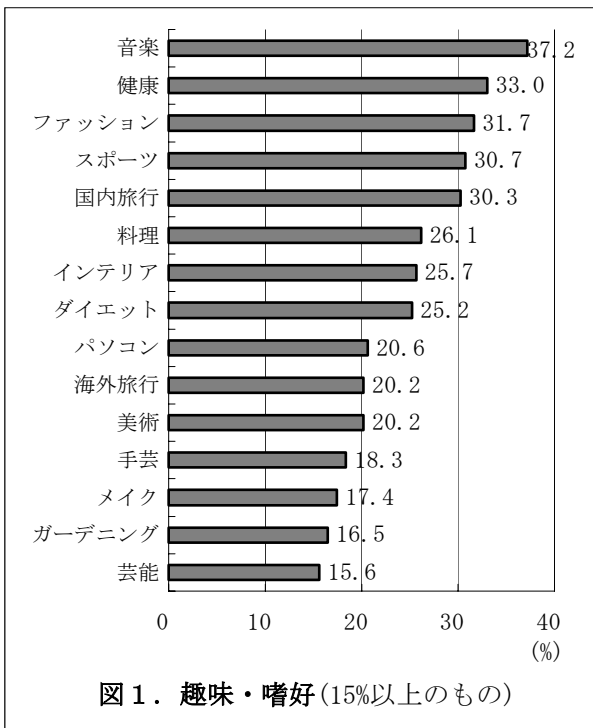
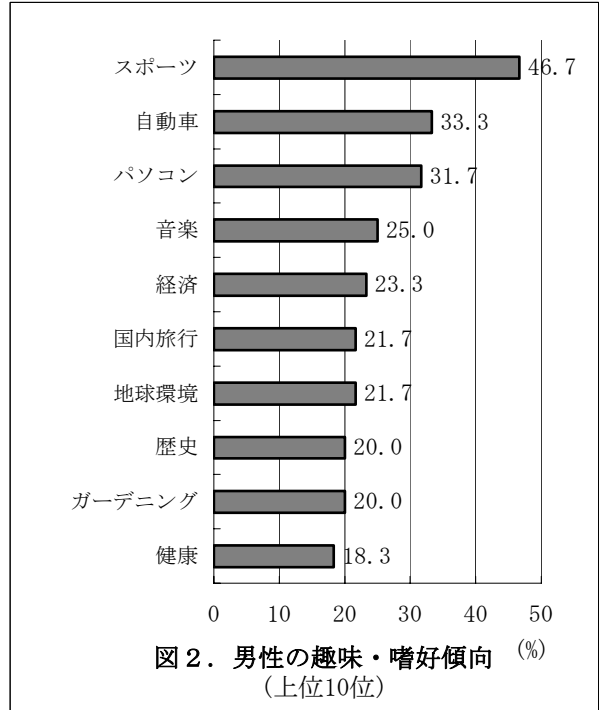
  

|    | 高校生 | 大学生 | 無職 | その他 |
|----|-----|-----|----|-----|
| 男性 | 0   | 4   | 3  | 6   |
| 女性 | 1   | 23  | 6  | 17  |
| 計  | 1   | 27  | 9  | 23  |

② 趣味・嗜好の傾向

趣味・嗜好として65項目の中から興味のあるものについて複数回答を求めた。15%以上の回答が得られたものを図1に示す。今回の全体的な集計では「音楽」が37.2%で一番多く、次いで「健康」(33.0%)、「ファッション」(31.7%)、「スポーツ」(30.7%)、「国内旅行」(30.3%)、「料理」(26.1%)、「インテリア」(25.7%)、「ダイエット」(25.2%)、「パソコン」(20.6%)、「海外旅行」(20.2%)、「美術」(20.2%)、「手芸」(18.3%)、「メイク」(17.4%)、「ガーデニング」(16.5%)、「芸能」(15.6%)の順であった。この結果から、一般的に健康志向や、移り変わるファッションへの注目、ワールドカップなどスポーツへの関心が高いことが伺える。しかし、今回の調査対象が女性に偏ってしまったため、男女別に傾向を比較した。(図2、図3) 男性で2位である「自動車」は女性では30位、男性で3位である「パソコン」は

女性では15位であった。一方、女性で2位である「ファッション」は男性では24位、女性で5位であった「ダイエット」は男性では48位であった。男女とも共通して上位になったものは、男性では1位で女性では9位の「スポーツ」、男性では4位で女性では1位の「音楽」、男性では10位で女性では3位の「健康」、男女とも6位の「国内旅行」であった。



## 公開講座に対する意識調査について

また、現在日本は大不況であると言われているが、趣味に対して1ヶ月に使う金額には人それぞれ上下はあるが、お金を使っている人は3万円から5万円という人が多く、一般的に趣味に関してはお金を惜しまない人が多いことがわかる。

### ③ ライフスタイル・カルチャースクール

ライフスタイルとして、主な情報源は、「テレビ」が77.5%で最も多く、次いで「新聞」(57.3%)、「雑誌」(35.3%)、「インターネット」(30.3%)の順となった。「広報誌」はわずか10.1%にすぎなかった。“② 趣味・嗜好の傾向”で述べた興味ある項目はテレビ、新聞、雑誌などでよく取り上げられるものであり、それらの情報を自然に目にする事ができる。つまり、これらの情報を自然に得ることで益々興味が湧いているのではないかと思われる。

次に図書館の利用率からは、ほぼ半数は図書館を利用していないが、残りの半数は図書館を利用して情報を得ていると考えられる。また、本の好みのジャンルについては、「暮らし・実用・旅行」(38.5%)、「文芸・ミステリー」(33.5%)、「女性・ライフスタイル・恋愛」(19.3%)、「人文・社会・ノンフィクション」(17.9%)の順であった。ここから興味ある公開講座の分野を推測できるかと思われる。

次に、生涯教育施設を利用してカルチャースクールや、お稽古事をしているかどうか尋ねたところ、何らかの習い事をしている人は22.9%おり、男性は11人に1人、女性は2~3人に1人という割合だった。女性の方が生涯教育に関心が高いことが伺える。これは、男女のライフサイクルの差異に深く関係していると思われる。一般に男性は職業人としてのアイデンティティの比重が高く、会社を退職した際などにその切り替えが上手に出来ず苦しむ人も多くと考えられる。一方、女性は一般に子供の成長に伴う子離れなどにより、それまでのアイデンティティを再構築する機会を早く迎えることが出来、男性に比べ長寿であることから、様々なアイデンティティを獲得し自己確立を進めるなど、趣味や生涯教育に関心が向きやすいと考えられる。<sup>1)</sup>

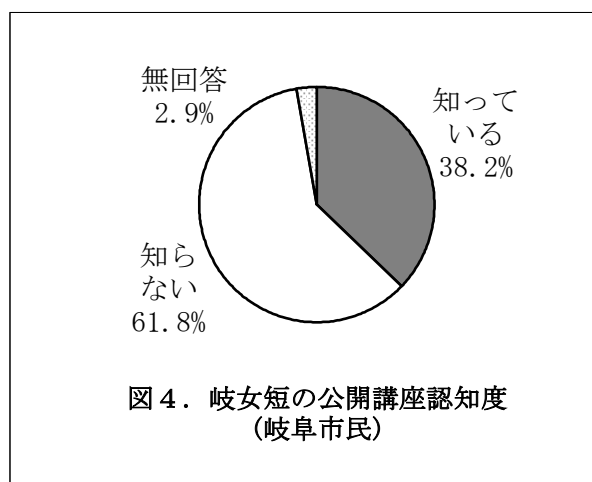
さらに、生涯教育施設を利用している人は、公開講座に対する受講意欲も高いのではないかと考えた。しかし、カルチャースクールに通っている人で受講意欲のある人は92.0%、通っていない人で受講意欲のある人は83.1%であった。多少、受講意欲に違いが見られるが、実際に学習時間を持てるかどうかは別にして、一般的に何らかの学習意欲があるように伺える。

また、生涯教育の内容としては、運動分野(スイミング、スポーツジム)や、趣味分野(茶道、陶芸、フラワーアレンジメント、絵手紙、トールペイント、着付け、大正琴、料理、パン教室、和裁、合唱、書道、手話)や、スキルアップ分野(パソコン)などがあった。

### ④ 公開講座に対する認知・要望、資格に対する興味

#### 1) 公開講座に対する認知

岐女短の公開講座の認知度は19.7%であった。また、岐阜市民の中では38.2%の認知度であった。(図4) 一般的な大学の公開講座に対する認知度に比べ、岐阜市民に限っても岐女短の公開講座に対する認知度は低いことがわかった。そのため、公開講座の告知方法については検討する必要があると考えられる。



現在本学が行っている方法は、「広報ぎふ」と「インターネット」である。今回の調査では、岐女短の公開講座を認知した情報源は「広報ぎふ」が59.1%と最も多い。しかし、“③ ライフスタイル・カルチャースクール”でも述べたように情報源全体に占める「広報誌」の利用度は10.1%と非常に低い。故に広報誌の情報源としての価値が低いため、岐女短の公開講座に対する認知度が低いと考えられる。つまり、広報誌での告知は一部の人がしか見ておらず、有効に利用されていないのである。そのため今後、岐女短での公開講座を拡大するのならば、他の媒体の利用も考えなければならない。例えば、先にも述べたが図書館を利用する人が約半数いることが分かったため、図書館でのポスターを利用した告知も考えられる。また過去の受講者は既婚女性が多いことから、本学同窓会を利用した宣伝やチラシなどの配布は有用ではないかと考えられる。また「インターネット」での告知は、本学のホームページや生涯学習などのサイトを故意に見なければわからない。そのため今回の調査では、インターネットによる告知での本学講座認識者は見られなかった。

さらに、岐女短の公開講座を知っている人の中での受講率については、過去15回行なわれた公開講座に対して14.0%、岐阜市民に限っても19.2%であることが分かった。これは公開講座を認知している人でも、受講経験者が20%に満たず、これからの受講者数の伸びを考えるならば、講義自体の形態や内容についても検討する必要があると言える。(図5)

公開講座に対する意識調査について

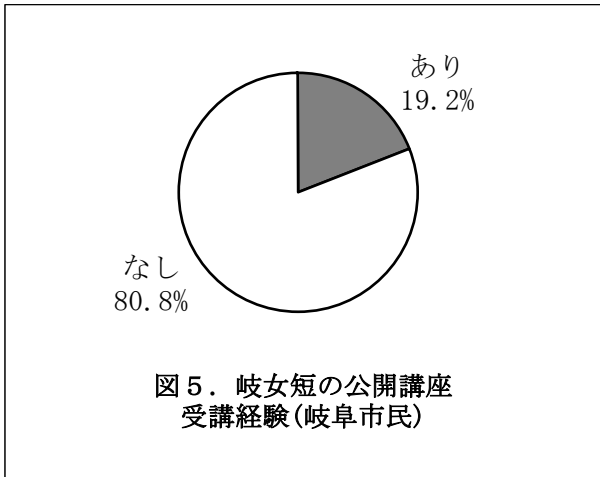


図5. 岐女短の公開講座受講経験(岐阜市民)

また、受講経験のある講座内容は、個々の趣味・嗜好の結果とほぼ一致していることが分かり、公開講座への興味と趣味・嗜好の傾向は深く関係していると思われる。

2) 公開講座への形態的要望

実際に公開講座の形態等について尋ねた結果を、希望の多いものでまとめると、『土・日・祝日の午後、1つの分野を4~5回に亘り連続で行う講義、40人までの社会人向け講座、実技も含む講義を週1回が隔週で行うこと』となる。これは、オムニバス形式を除いて、現在まで本学で実際に行っている講座と同じ形態である。このことから、現在の講座形態自体には受講者数の伸び悩みの大きな原因は見られないと思われる。

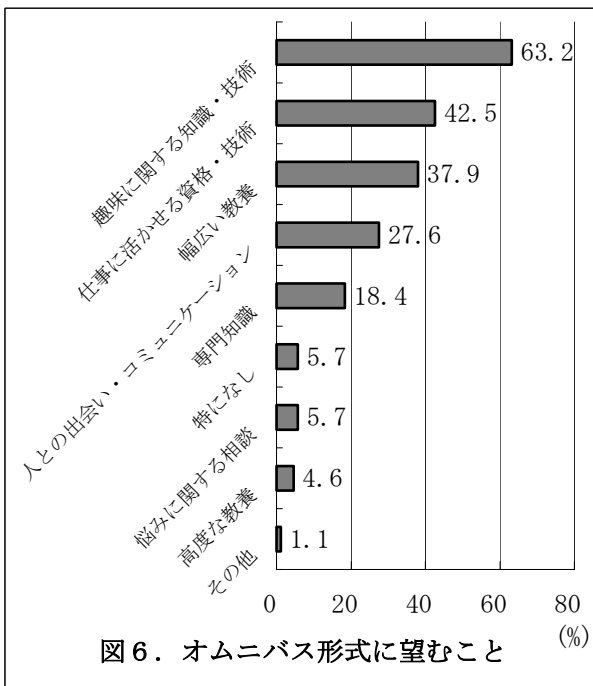


図6. オムニバス形式に望むこと

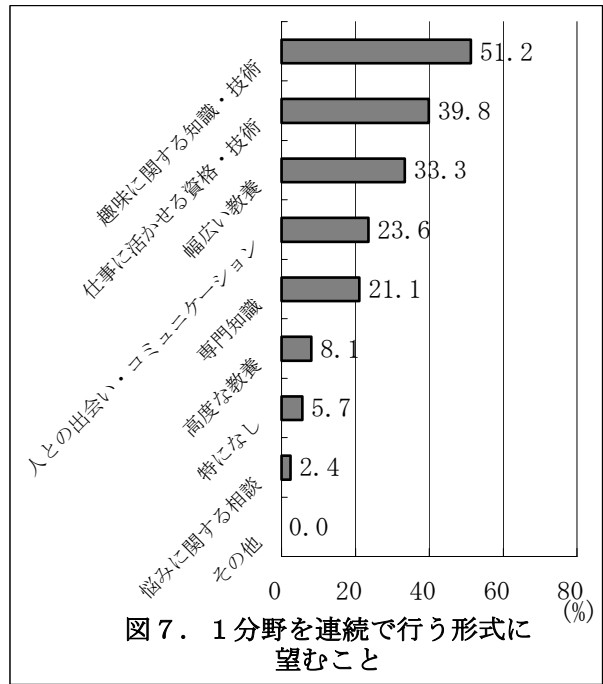


図7. 1分野を連続で行う形式に望むこと

講義の形式について、専門的知識を公開講座に求めるなら「1分野を連続して行う形式」が良いと思われた。しかし、希望形式別に公開講座に望む傾向を見た場合、趣味の一環としての講座希望形式とほとんど変化がなかった。(図6・図7)

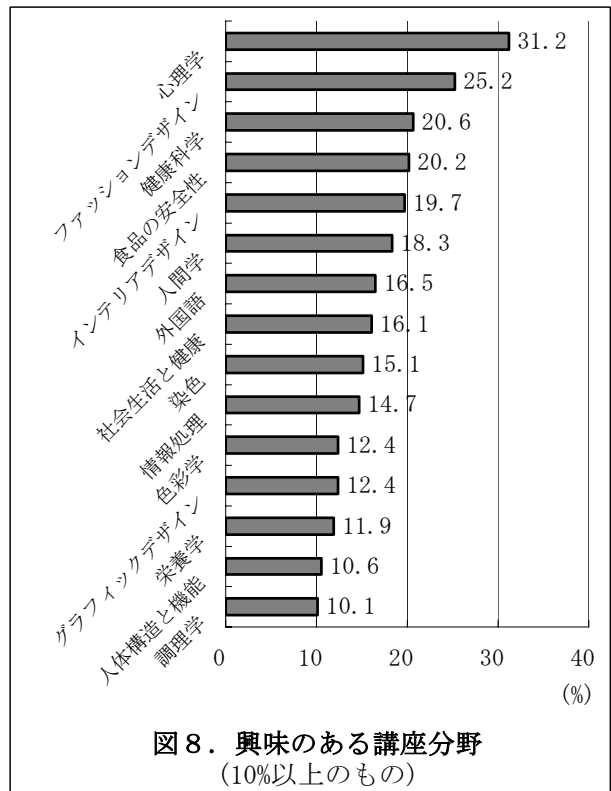


図8. 興味のある講座分野 (10%以上のもの)

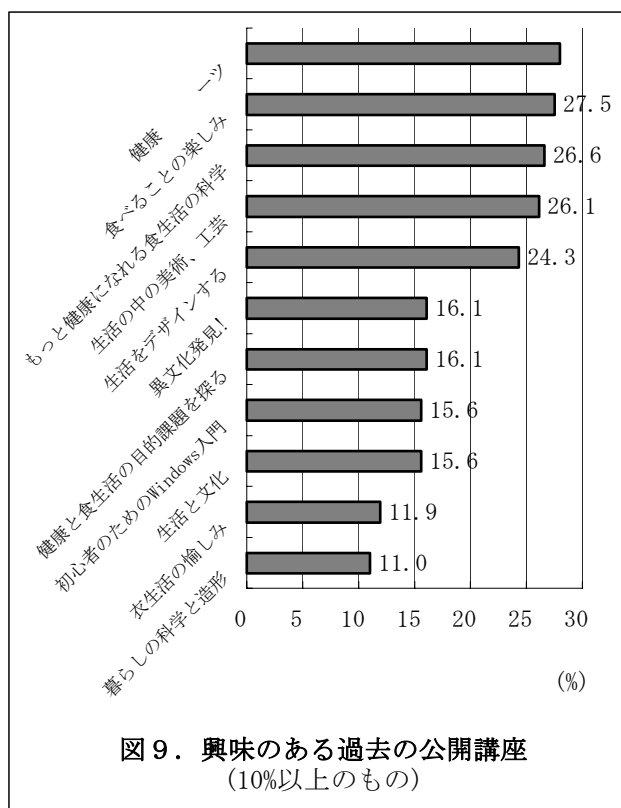


## 公開講座に対する意識調査について

また、大学による公開講座のイメージについて調べた。「大学の雰囲気味わえる」が最も多く(38.5%)、次いで「大学の先生の講義が受けられる」(36.7%)、「高度な学問の一端に触れられる」(25.2%)というイメージを持っていることが分かった。これから、公開講座は『大学生の疑似体験』的イメージを持っている人が多いことがわかる。

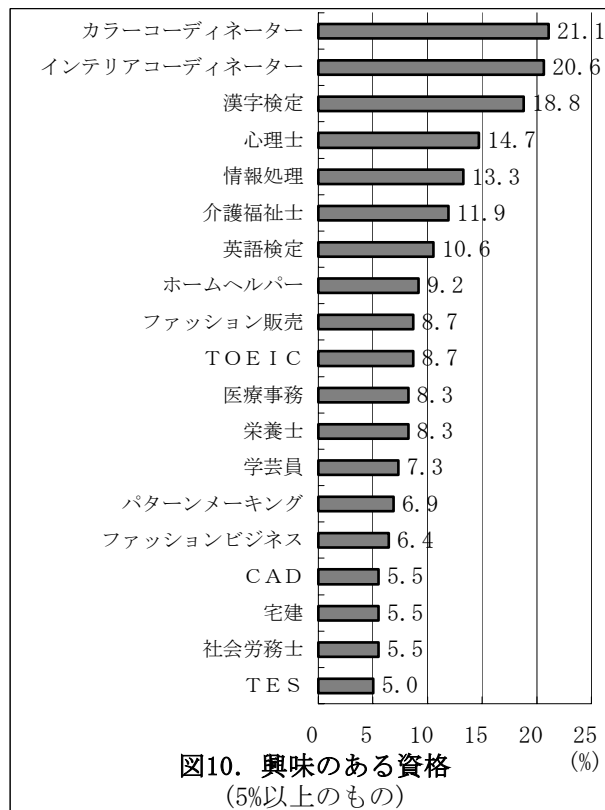
次に実際に21分野の講座キーワードのうち興味を持ったものについて複数回答で尋ね、10%以上のものを示す。(図8)今回は「心理学」が最も多く(31.2%)、「ファッションデザイン」(25.2%)、「健康科学」(20.6%)、「食品の安全性」(20.2%)、「インテリアデザイン」(19.7%)、「人間学」(18.3%)、「外国語」(16.5%)の順であった。

また、本学で過去15回にわたって行われた公開講座のうち興味をもった講座について複数回答で尋ね、10%以上のものを示す。(図9)「健康とスポーツ」(28.0%)が最も多く、「食べることの楽しみ」(27.5%)、「もっと健康になれる食生活の科学」(26.6%)、「生活の中の美術・工芸」(26.1%)、「生活をデザインする」(24.3%)の順であった。ここで上位に位置するものは公開講座の題目がわかりやすいが、下位のものは題目が抽象的で具体的な講座内容が想像しにくいことが原因の一つではないかと考えられる。また、図8や図9から健康分野、食物・栄養分野、デザイン分野、情報処理分野などに興味があることがわかる。これは“② 趣味・嗜好の傾向”で述べた結果とほぼ一致している。



### 3) 資格に対する興味

資格について28項目の中から、興味のあるものを複数回答で尋ね、5%以上のものを示す。(図10)今回は、「カラーコーディネーター」(21.1%)が最も多く、「インテリアコーディネーター」

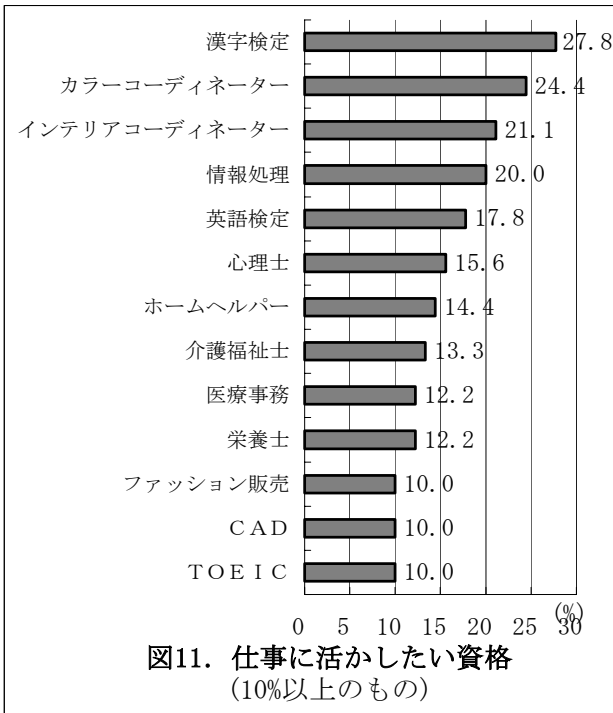


(20.6%)、「漢字検定」(18.8%)、「心理士」(14.7%)、「情報処理」(13.3%)、「介護福祉士」(11.9%)、「英語検定」(10.6%)の順であった。資格取得を目的とした講座は各種学校を含め多く、就職・スキルアップに結びつくため資格に対して興味を持っていることが分かった。ここでの結果も、“② 趣味・嗜好の傾向”の結果の傾向とほぼ一致していることが分かる。

### 4) 今後の公開講座に対する要望

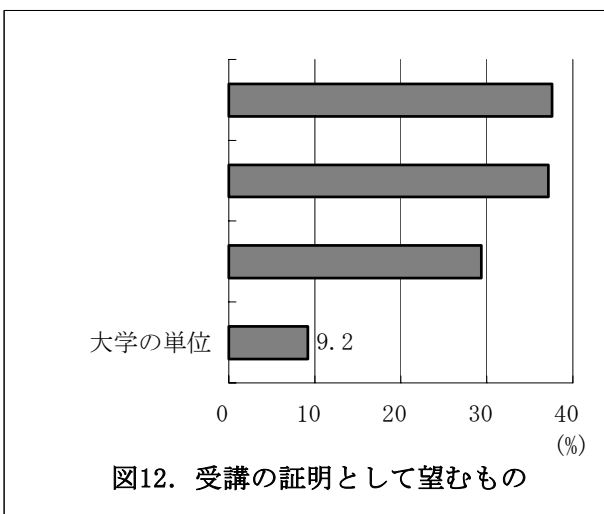
大学で行われる公開講座に望むことは何であるか尋ねたところ、多くの人が「趣味に関する知識・技術」や「仕事に活かせる資格・技術」を求めていることが分かった。要望が二極化していることから、講義内容や対象者を明確にし、受講者を増やすだけでなく、満足度を高めてもらうことが重要であろう。また、「仕事に活かせる資格・技術」を望む人の興味ある資格について10%以上のものを図11に示した。「3) 資格に対する興味」の全体的な興味ある資格の結果(図10)と大差はなかったが、「漢字検定」、「カラーコーディネーター」、「インテリアコーディネーター」、「情報処理」などに20%以上の関心があった。

公開講座に対する意識調査について



また、数回の講義等を受講する場合、その費用はどの程度までならよいか、趣味に関する知識や技術を身につけられる講座の場合と、仕事に活かせる資格や技術に関する講座の場合についてそれぞれ尋ねた。趣味に関する講座より仕事に活かせる講座の方が金額の許容範囲は大きいようだが、各種学校の高い受講料等に比べ、大学ではあまり高い費用は望まれていないことがわかる。この問題に関しては、公立大学は私学の経営を圧迫するという考え方もある。

しかし、新田照夫が、『高等教育が提供する専門技術的指導は、生涯学習という公共サービスの一環として、無償もしくは低料金で実施されることが望ましい。』<sup>2)</sup>と述べているように、公立



大学の役割として、地域に対し比較的低料金で生涯学習を行う意義も非常に高い。

次に公開講座の受講の証明として望むものについて複数回答で尋ねた。(図12)「何も望まない」が最も多く37.6%、「公的な資格」(37.2%)、「公開講座の修了証」(29.4%)、「大学の単位」(9.2%)であった。仕事に活かすスキルアップのために受講するなら「公的な資格」、趣味の一環や生きがいのために受講するなら「修了証」など何らかの記念的な証明が欲しいと考えられる。

最後に興味のある講座があれば受けてみたいか尋ねた。(図13)受講意欲「あり」が85.3%、「なし」が13.8%であったため、興味のあるものなら受講する意思があることが伺える。つまり、告知方法や講義内容を再検討すれば、より多くの受講者が期待できると思われる。

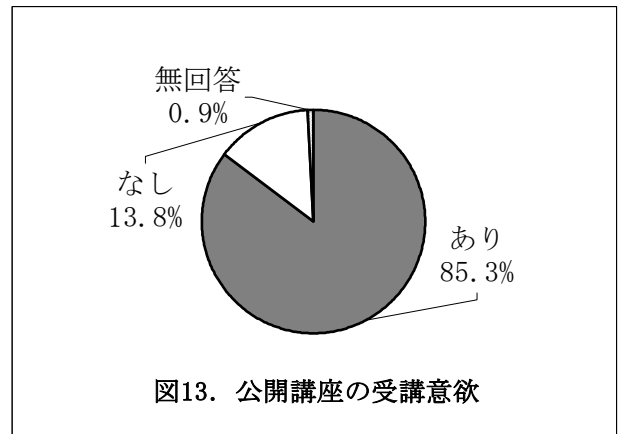


表4. 図書館利用率と受講意欲の関係

単位: 人数 (%)

|           | 受講意欲あり |        | 計      |
|-----------|--------|--------|--------|
|           | 人数     | 割合 (%) |        |
| ほとんど毎日    | 5      | (2.3)  | (45.9) |
| 2~3日に1回   | 5      | (2.3)  |        |
| 週1回       | 24     | (11.0) |        |
| 月に1回      | 38     | (17.4) |        |
| 半年に1回     | 18     | (8.3)  |        |
| 年に1回      | 10     | (4.6)  |        |
| ほとんど利用しない | 84     | (38.5) | (38.5) |
| 無回答       | 2      | (0.9)  | (0.9)  |
| 計         | 186    | (85.3) | (85.3) |

|           | 受講意欲なし |        | 計      |
|-----------|--------|--------|--------|
|           | 人数     | 割合 (%) |        |
| ほとんど毎日    |        |        | (4.1)  |
| 2~3日に1回   |        |        |        |
| 週1回       | 4      | (1.8)  |        |
| 月に1回      |        |        |        |
| 半年に1回     | 3      | (1.4)  |        |
| 年に1回      | 2      | (0.9)  |        |
| ほとんど利用しない | 21     | (9.6)  | (9.6)  |
| 計         | 30     | (13.8) | (13.8) |

## 公開講座に対する意識調査について

また、図書館を年に1回以上利用している人で、公開講座を受けてみたい人はどのくらいいるか調べ、表4に示した。図書館を利用している人の45.9%は公開講座の受講を希望している。つまり図書館へチラシを配布することによって効率的に受講者を得ることができるのではないかと考えられる。

最後に、公開講座に対する意見を自由に書いてもらったところ、『岐女短で公開講座が行なわれていることを知らなかった。告知の方法を検討して欲しい』という告知方法についてのクレームや、『公開講座を受けてみたい』という受講意欲が見られた。このアンケートを行うことで、岐女短の公開講座を認識し、受講したいという意欲を持ってくださった人が多くいたようで嬉しい限りである。

### IV. まとめ

今回の意識調査を行ったことで、公開講座の受講者数の伸び悩みには大きく2つの原因があることが確認できた。

第一には、公開講座の告知方法である。講座内容が世間の受講希望者にまで届いていない嫌いがあり、従来の市の広報誌による告知だけでなくもっとメディアを活用し、活発に情報発信する必要があるだろう。例えば、新聞やテレビのメディアによる広告は効果が高いと考えられるが、宣伝費用を持たない公立短大では困難である。そういった状況を考慮するのならば、広報誌やインターネット以外に、図書館など公共施設へのポスター・チラシの配布、本学同窓会を利用した宣伝などが対費用効果の面からも、最も良い方法だと考えられる。これらはすでに他大学では行なわれている方法であり、本学の認知度アップや受講者の開拓という観点からも、積極的に取り入れる価値があるのではないだろうか。

もう1つは、講座内容の方向性の揭示にあると思われる。公開講座の受講意欲は8割強の人が持っている。その中で講座に望むことは「趣味に関する知識・技術」と「仕事に活かせる資格・技術」とに二極化している。同じ講座を受けても、『難しくわからない』と思う人もいれば、『物足りない』と感じる人もいるだろう。その受講後の消化不良を軽減するためにも講座の方向性・目標立ては重要である。趣味に関する講座であれば、世間一般の趣味・嗜好を加味しながら、講義形式のみでなく実技などを組み込むと受講生の満足度は増す。また、仕事に活かす講座であれば、資格対策講座という形式をとるのも可能であり、外部講師として現場で活躍しているプロの人を大学側でコーディネートするという方法も有効ではないかと考えられる。例えば、本学で行っている夏期講座『親子で始める早期英語教育』の受講希望者は、平成12年度約100名、平成13年度60名、平成14年度92名であり、『熟年世代のPC教室』の受講希望者は、平成12年度150名以上、平成13年度106名、平成14年度112名であった。対象を限定したものや講座内容がはっきり

しているものは募集定員を希望者数が下回ることはほとんどなく、中には募集定員の倍以上の応募が来る講座もあった。つまり、対象者や講座内容を明確に掲示することで、受講希望者の増加も期待でき、受講者の満足度自体も高まると思われる。

今回、得られたデータをそのまま反映することは、大学の特徴や公開講座の意義自体を失う危険性があるが、受講対象者の生の声と考え参考にしていただけたらと思う。公開講座を行う意義は、本学教員の研究内容や成果を公開し、地域に還元すること、地域住民に本学についての理解を深めてもらうことにあり、これからの岐女短の公開講座が、さらなる地域交流の橋渡しになればと願っている。

なお、今回のアンケート調査は、幅広い層からの回答を心掛けたつもりであったが、結果として、回答者の多くが女性となってしまったことから、意見が若干偏ったものになってしまった可能性もある。今後同じ様なテーマで調査する際は配慮したいと思っている。

### 謝辞

今回アンケートにご協力くださった方々と、この紀要執筆にあたりご指導いただいた久保村里正講師に感謝する。

### 引用文献

- 1) 村田治:『生涯学習時代における大学の戦略—ポスト生涯学習社会にむけて—』、ナカニシヤ出版、京都、112-117、(1999)
- 2) 新田照夫:『大衆的大学と地域経済—日米比較研究—』、大学教育出版、岡山、183・244・255、(1998)
- 3) 『文部科学省生涯学習政策局資料』、文部科学省、(2002)
- 4) 『岐阜市第四次総合計画 前期基本計画』、岐阜市、162-165、(1996)
- 5) 松本久司:「公開講座への誘い—地域自治のトポスとしての再定義—」、<http://www.urban.meijo-u.ac.jp/zmatsumo/report/topos.htm>
- 6) 内田治:『すぐわかる EXCEL』によるアンケートの調査・集計・解析』、東京図書、東京、(2001)

(提出期日 2003年3月5日)